

## [課題]

新科目「公共」とは何をめざした科目か学習指導・評価の諸点から論じなさい。

## [本文]

2006年に改訂された教育基本法の前文に「我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期する」と明記されている。この前文における「公共の精神」の尊重に基づく、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成こそが、新科目「公共」の大筋の狙いである。<sup>1</sup>

続く、教育基本法第二条の三には「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」とある。教育基本法の中で、「公共の精神」について明確な定義はないが、全体の文脈から「個人の尊厳」「正義と責任」「男女の平等」「自他の敬愛と協力」と続き、「主体的に社会の形成に参画し」とある。教育基本法の条文の中に、「公共」の目指す方向と、扱うテーマが記されているとあって良いであろう。<sup>2</sup>

では、高等学校学習指導要領（平成30年告示）から、具体的に「公共」の定義と目標を探っていきたい。「科目の性格と目標」の中で、性格は「我が国が厳しい挑戦の時代を迎える中で、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を効果的に育むための中核を担う科目」と明確に定義づけられている。そして、その目標は「人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成すること」と記されている。<sup>3</sup>

成人年齢が引き下げられる中で、そしてグローバル化する現代社会の中で、責任能力を持った公民、幅広い課題に対する正しい判断ができる市民を作っていくことが、「公共」の授業を担当する教員に求められている。とりわけ、内容の大項目の「A 公共の扉」が「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の学習の基盤となっている。<sup>3</sup>

この「公共の扉」の授業方法として、東京工業高等専門学校准教授の村瀬智之氏は、「哲学対話」の手法を提唱している。ペアやグループになって、民主主義の問題や地域の環境問題など、一つの答えがすぐに出るようなものではないテーマを取り上げて、対話を通して、自分の考えと他者の考え、同じ点と違う点などを整理しながら、テーマに向き合っていく授業実践である。<sup>4</sup>

そうしたオープンエンドな授業の評価方法はなかなか難しい。答えのある知識問題や記述問題によるテストは、そもそも公共の扉の目的に反するものである。村瀬氏は授業の原点が「対話」であるため、考えたことを文章の形にする方法を提案している。1回の授業ごとに短い文章をカ

書かせてもよいし、一連のテーマが終わった段階や、授業の大きな單元ごとに書かせてもよい。また年間を通して蓄積し、思考の過程を評価するという方法もある。まずは自身の第一印象を書かせ、他者の意見との対話を通して、自分の考えがどのように変化し、深化していったのか、その過程を記すことで、現在の自分と過去の自分自身との「対話」も形成されていく。

また、主体的態度として議論の場に参加すること自体を評価してもよい。自分の意見を話すだけでなく、他者の意見を聞くことも議論への参加である。発言した人だけの評価するのではなく、頷いて聞く、考えながら聞くという姿勢も評価に加えたい。<sup>5</sup>

平成30年告示の学習指導要領が施行されて、今年で3年目を迎える。高校現場ではまだまだ試行錯誤ながら、観点別評価に伴う成績処理が定着し始めている。学習指導用要領に沿った授業も大切であるが、進級・卒業や学校推薦型入試などで、他教科とも歩調を合わせながら評価の数字を丁寧に算出することが、高校現場では求められる。そうした現実の諸課題を処理しつつも、授業の改善に目を向けていきたい。

文字数：1753字

#### <引用・参考文献>

- <sup>1</sup> 山脇直司『社会とどうかかわるか』 岩波書店, 2008, pp.160 参考
- <sup>2</sup> 同上, pp.162 参考
- <sup>3</sup> 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』 2018, pp.27 引用
- <sup>4</sup> 東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会編『「公共の扉」をひらく 授業事例集』 清水書院, 2018, pp.22 参考
- <sup>5</sup> 同上, pp.26 参考